

令和2年度第3学期始業式式辞（放送）

おはようございます。2021年、令和3年、明けましておめでとうございます。まずは気持ちよく挨拶でスタートです。今年も日頃から挨拶が溢れる学校、穎明館でありたいと思います。「目は心の窓」と言います。マスクをしていますが、マスクをしているからこそ、まなざしは優しく、表情豊かに挨拶を交わしましょう。

2学期の終業式から約2週間、心と形を整えることはできましたか。今日は、新年・新学期のスタートを意識してキャリア教育の観点から、将来に向けて皆さんに求められている力、身につけてほしい能力について話したいと思います。

さて、経済同友会の「企業の採用と教育に関するアンケート調査」結果において、「企業が学校教育に期待すること」として、人格、教育、経験の3要素に関わる報告があります。人格面で期待されることは、中学・高校・大学ともに1位は「対人コミュニケーション能力の育成」です。企業の採用選考の場では、この「コミュニケーション能力」が、15年連続で最も重要視される項目になっています。次に教育面で期待されることでは、中学・高校の1位は「基礎学力の養成」です。大学の1位は「論理的思考能力等の養成」になっています。そして期待する経験面の上位三項目は、中学・高校・大学ともにクラブ・サークル活動、ボランティア活動、国際交流活動となっていました。

また、「社会人基礎力」という概念もあります。3つの能力として、前に踏み出す力（アクション）、考え抜く力（シンキング）、チームで働く力（チームワーク）が挙げられ、その育成が教育現場に求められてきています。

穎明館生の皆さん、今までの話を聞いてどう思いますか。他の先進国に比べて、日本の若者の自己肯定感が低いと言われて久しいですが、皆さんの中にも、「今の自分に自信がない」とか、「将来に向けて漠然とした不安を抱いている」という人がいると思います。実は企業や社会が求めている力、身につけてほしい能力は、穎明館の毎日の教育活動で十分に身につくものなのです。皆さんが日々の授業で身につける基礎学力、学校行事やクラブ活動、多彩な課外活動で培うコミュニケーション能力等々。自信をもって、新年・新学期も今まで通り、否、今まで以上に、大学入試に向けて、そしてその先の将来に向けて、それぞれの取り組みに力を入れていきましょう。

もう一つ、最近、心理学の立場から注目されている「グリット」について触れておきます。グリットとは、「Guts (闘志)」、「Resilience (粘り強さ)」、「Initiative (自発性)」、「Tenacity (執念)」の頭文字をとった造語で、能力に関係なく頑張っていく力のことを言います。すなわち、グリットとは「やり抜く力」です。2学期の終業式で「心は形を求め、形は心を進める」という言葉を紹介しましたが、何かを求め、やり遂げようとするときには、自分に負荷がかかります。その負荷に耐えられるかどうか、グリットを持ち続けられるかどうかの条件になります。心理学の立場では、このグリットは生まれつきのものではなく、後天的なものであり、継続的に努力をすれば必ず身につくものだそうです。穎明館生には、グリットを大事にしてほしい。何事にも一歩前に踏み出し、失敗しても、粘り強く取り組んでいくことを期待しています。

穎明館では従来からキャリア教育に力を入れてきました。キャリア教育のキャリアにはいろいろな意味合いがありますが、私は「役割」を重視しています。家族の一員としての役割、穎明館生としての役割、クラス・クラブの一員としての役割……役割は過去、現在、未来とつながっています。今の役割をきちんと果たせる人は、これから将来の役割も任せられる人に成長していくはずです。学校はその資質を鍛える訓練の場でもあります。だからこそ一所懸命に自分の役割を果たそうとするところに、適性や将来の可能性が見えてくるように思います。今の自分にでき得ることに全力を尽くすこと、それが一番のキャリア教育だと言えそうです。自分のでき得ることに全力を尽くすことは、**With** コロナ時代の全人類的なテーマでもあります。常にベストを尽くすことを意識しましょう。

さて、6年生、34期生の皆さん、いよいよ受験本番が近づいてきました。現役生は受験当日まで伸びる。平常心を胸に自分のために頑張ってください。自分のために頑張り切れない人は、自分の大切な人、喜んでほしい人、例えば親、家族、親友、先生等々、その人のために頑張りぬいてください。大学入試改革やコロナで苦しんだ皆さんには、「いかなる教育も逆境から学べるものには敵わない」というイギリスの宰相・ディズレーリの言葉も贈りたいと思います。

ところで、冬休みには、兄弟校の堀越高校サッカー部が29年ぶりの全国大会で、ベスト8に進出するという朗報がありました。思えば、創立者堀越克明先生は、「堀越はスポーツや芸能など個性を伸ばす教育、穎明館は進学に力を入れる教育。私立学校としてしっかりと特色を出してやっていかなければならない。」

と生前、よくおっしゃられていました。穎明館も学校全体で進学教育により一層、力を尽くしていきたいと思えます。

結びになりますが、穎明館生の皆さん、寒い毎日、不安定な日常が続きます。コロナ感染は増加の一途をたどり、政府により再び緊急事態宣言が発出される段階になりました。穎明館では生徒・教職員一同、感染防止、健康管理に十分注意し、「学びを止めない。感染しない、させない。誰かの、何かのせいにしない。」を合言葉に力を合わせていきましょう。今後については、先生方の指示・連絡に基づいて、きちんと対応してください。厳しい状況ではありますが、3学期、2021年も、皆さんが、将来に向けての力を身につけていくことを意識して学校生活、そして学びの毎日を送ることを期待しています。

以上、令和2年度第3学期始業式の式辞といたします。